

新興国レポート

インドCPIは前月から低下するも高止まり

インド準備銀行 3会合連続で政策金利引き上げ

- ▶ インドの7月CPI(消費者物価指数)上昇率は前月より低下したものの、前年同月比+6.7%となっており、RBI(インド準備銀行)の政策目標(2~6%)を上回る。
- ▶ RBIは5日定例会合を開き、3会合連続で政策金利引き上げを決定。
- ▶ インド株式は良好な米ハイテク企業の決算を受けてテクノロジー株がけん引。

(1) インドCPIの動向

・インド統計・計画実施省中央統計局が12日に発表した7月CPIは前年同月比+6.7%と市場予想(同+6.8%)を下回り、前月の同+7.0%から低下しました(図表1)。項目別では、飲食費が前年同月比+6.7%と3カ月連続で前月(同+7.6%)から低下しました。運輸・通信費についても同+5.6%と前月(同+6.9%)から低下しました。一方、エネルギー供給不足への懸念から光熱費は、同+11.8%と2カ月連続で上昇幅を拡大しました。インフレの加速ペースは鈍化したものの、高止まりが続いており、CPIは依然としてRBIの政策目標(2~6%)を上回る状況が続いています。RBIは金融引締め姿勢を継続するとの見方が大勢を占めています。

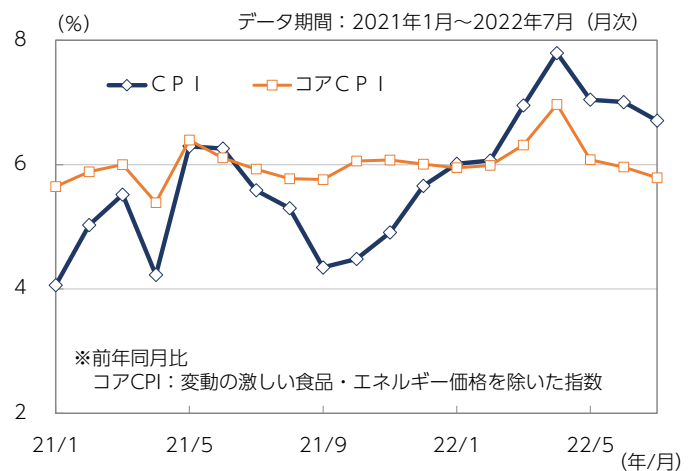
(2) 3会合連続で利上げを決定

・RBIはCPI発表に先立つ5日の金融政策決定会合において政策金利を0.5%引き上げ、5.4%とすることを決定しました。利上げは3会合連続となります(図表2)。前回(6月)会合以降、世界各国での金融引締め加速やウクライナ危機が続く、景気後退リスクが高まっており、インフレを抑制し経済成長を持続させるには、さらなる金融引締めが必要であることを示しました。またインフレ率は2022年中はRBIの政策目標を上回る見通しを示しました。

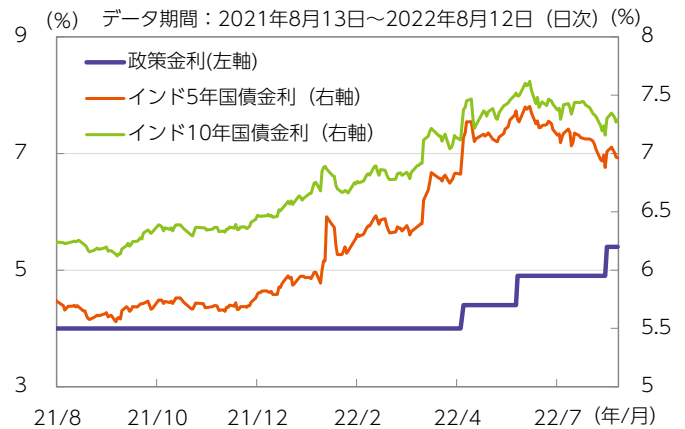
(3) インド株式や金利、通貨の動向

・6月中旬にかけ軟調な展開となっていたSENSEX指数は、足元では堅調な展開となっています(図表3)。良好な米ハイテク企業の決算等をうけて、テクノロジー株が相場をけん引しています。上昇基調にあった国債金利は、世界的な景気減速懸念の高まりを受けて、やや低下(価格は上昇)基調で推移しているものの(図表2)、インフレが鎮静化するまでは金利が上昇しやすい環境が続くことが想定されます。世界的な景気減速懸念によりリスク回避姿勢が強まったことから、新興国通貨であるインドルピーは対円で調整局面にあるものの(図表3)、RBIと日銀の政策スタンスの相違などから、当面インドルピーは対円で底堅く推移することが想定されます。

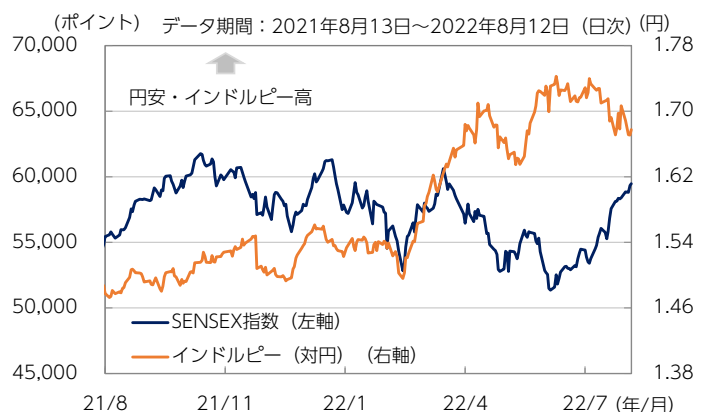
図表1：インドのCPI上昇率



図表2：インドの各金利



図表3：インド株(SENSEX指数)と為替の推移



【当資料に関する留意点】

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料のいかなる内容も将来の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に投資信託のグラフ・数値等が記載される場合、それらはあくまでも過去の実績またはシミュレーションであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- 投資信託は投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託の手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品を勧誘するものではないので、表示することができません。

<設定・運用>



ニッセイアセットマネジメント株式会社

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者

関東財務局長（金商）第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会

一般社団法人日本投資顧問業協会

ニッセイアセットマネジメント株式会社

コールセンター 0120-762-506（受付時間：営業日の午前9時～午後5時）

ホームページ <https://www.nam.co.jp/>